

ICOM

取扱説明書

144MHz FM TRANSCEIVER

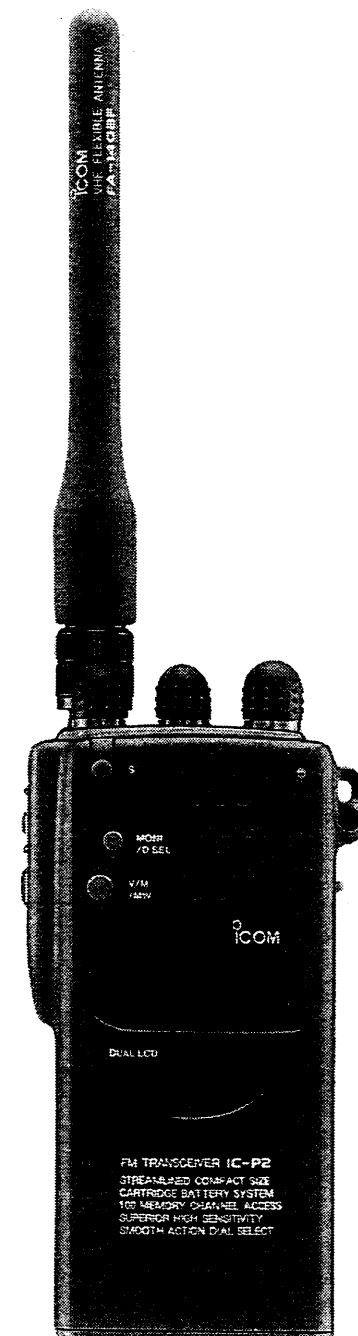
IC-P2

430MHz FM TRANSCEIVER

IC-P3

この無線機を使用するには、郵政省のアマチュア無線局の免許が必要です。また、アマチュア無線以外の通信には使用できません。

Icom Inc.



はじめに

目次

このたびは、IC-P2/IC-P3をお買い上げいただきまして、まことにありがとうございます。
ご使用の際は、この取扱説明書をよくお読みいただき、本機の性能を十分発揮していただくとともに、末長くご愛用くださいますようお願い申し上げます。

目次

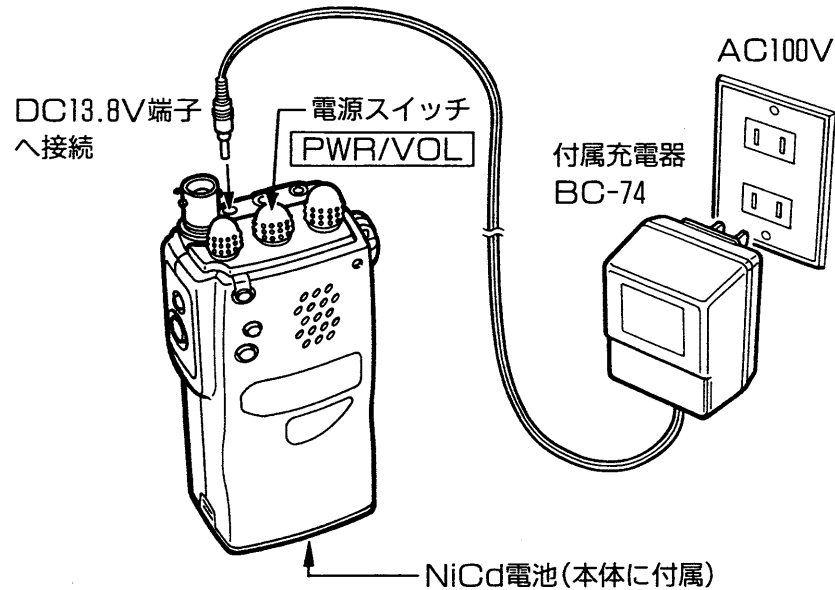
1. ご使用の前に	
■充電とリセット操作	1
■付属品の確認と使いかた	2
■ご注意	3
2. 各部の名称と機能	
2-1 上面操作パネル	5
2-2 前面パネル	6
2-3 ディスプレイとSスイッチについて	7
3. 基本操作のしかた	
3-1 電源のON/OFF、音量・スケルチの調整	8
3-2 周波数の設定のしかた	9
3-3 周波数を大きく変えたいときは	10
3-4 時計の合わせかた	11
3-5 受信のしかた	12
3-6 送信のしかた	13
4. メモリーチャンネルの使いかた	
4-1 メモリーチャンネルの呼び出しかた	14
4-2 メモリーチャンネルに記憶させるには	15
5. スキャンのしかた	
5-1 スキャン操作を行う前に	16
5-2 フルスキャンのしかた	17
5-3 プログラムスキャンのしかた	18
5-4 メモリースキャンのしかた	19
6. レピータの使いかた	
6-1 レピータの使いかた	20
6-2 レピータ情報をメモリーさせるには	22
6-3 レピータ運用のその他の機能	23
7. その他の機能	
■メモリーをVFOへ転送するには	24
■ダイヤルロック機能	24
■照明のON/OFF	24
■コールチャンネルについて	24
8. 大切に長くお使いいただくために	
8-1 電池について	25
8-2 充電のしかたと外部電源	26
8-3 リセット操作について	27
■メモリーの内容が消えているときは	28
8-4 故障かな?と思っても	29
■ディスプレイに余分な表示が出たときは	30
9. 免許の申請のしかた	31
10. JARL制定V/UHF帯について	32
11. 定格	33

ご購入後、初めて電源を入れるときの

■充電とリセット操作

1. 充電のしかた

付属の充電器(BC-74)を、図のように接続すると充電ができます。

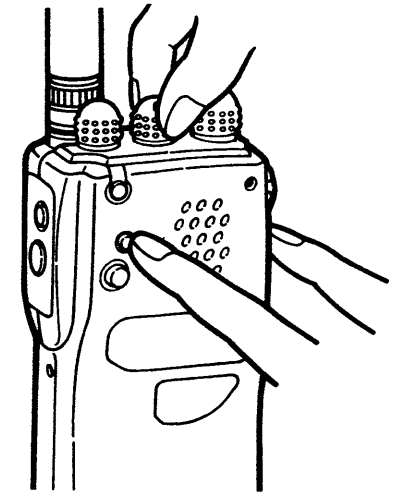


- 充電時は、本体の電源スイッチをOFFにしておきます。
- 充電完了の目安は約15時間です。

ご購入後、初めて電源を入れるときは、十分に充電を行ったのち、必ずリセット操作をしてください。

2. リセットのしかた

1. 電源をOFFにする。
2. **LIGHT** と **MONI** を押しながら **PWR/VOL** をまわし電源をONにする。



- 初期状態が下記のように表示され、運用を開始できます。

● IC-P2初期状態

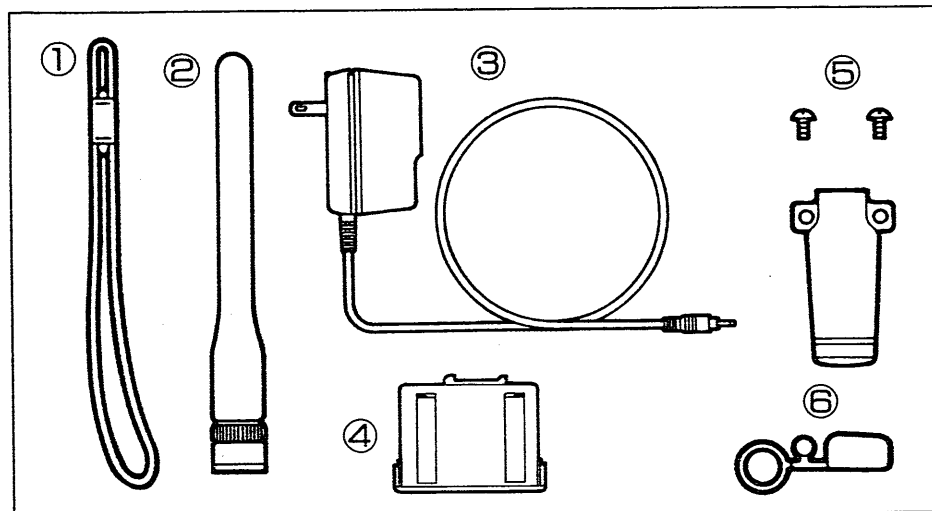


● IC-P3初期状態



1 ご使用のまえに

■付属品の確認と使いかた

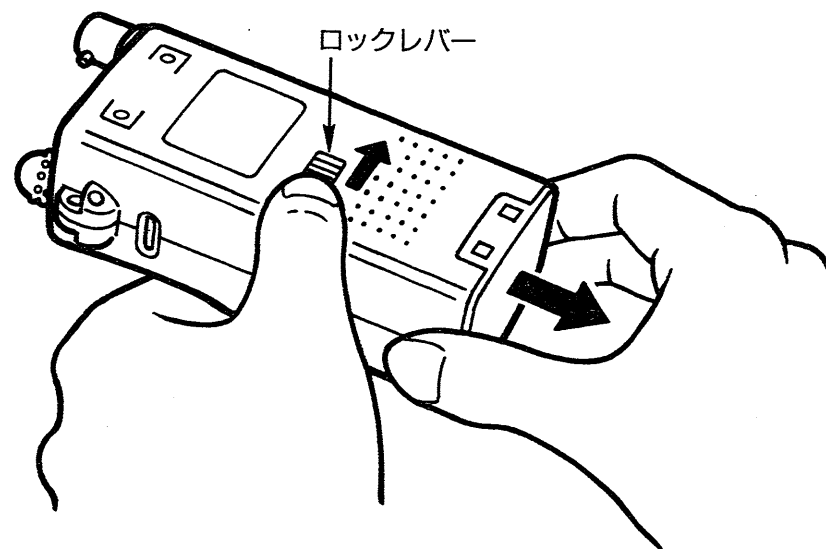


- ①ハンドストラップ..... |
- ②アンテナ..... |
- ③充電器(BC-74) |
- ④NiCdバッテリーパック(本体装着済)..... |
- ⑤ベルトクリップ..... |
- ⑥ゴムキャップ(本体装着済)..... |
- 取扱説明書
- 愛用者カード
- 保証書

■バッテリーパックの脱着のしかた

1. バッテリーパックのはずしかた

本体背面のロックレバーを内側に押しながら、図のようにバッテリーパックを引き抜きます。

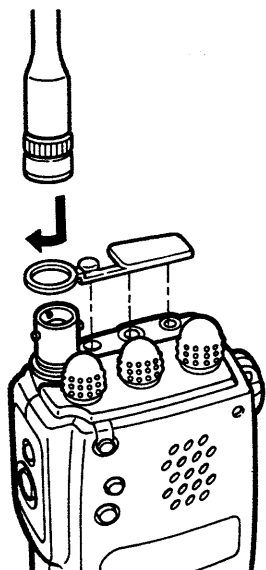


2. バッテリーパックの装着のしかた

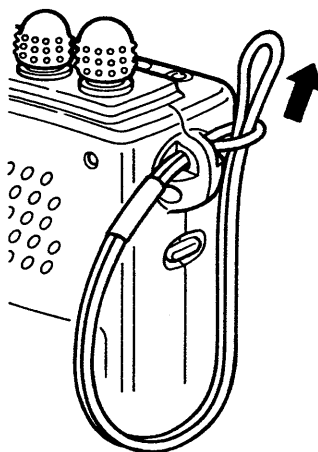
ロックレバーを開放したまま、バッテリーパックを手のひらで押し込みます。(カチッと音がするまで押し込む)

■付属品の使いかた

■アンテナおよびゴムキャップ

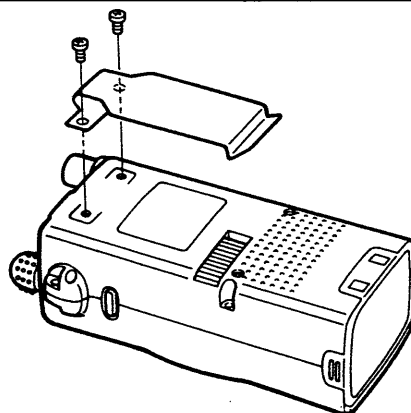


■ハンドストラップ



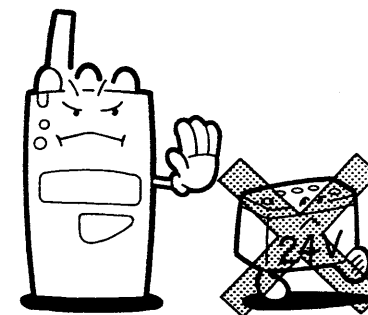
■ベルトクリップ

※取り付け時は、本体ネジ穴をふさいでいるホールブッシュを取りのぞいてください。



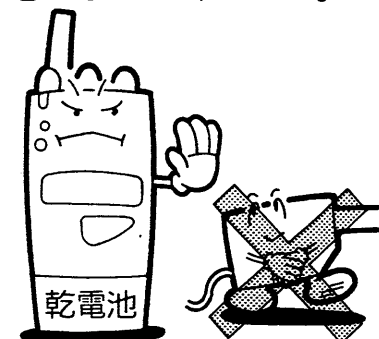
■ご注意

A DC6～16V以外の電圧は使用できません。



弊社指定のバッテリーパック、またはオプションケーブルをご使用ください。

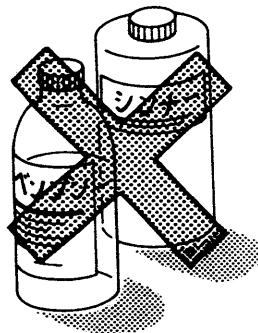
B 乾電池で運用するときは、絶対に充電しないでください。



乾電池で運用中に外部電源を接続すると、液もれのおそれがあり、故障の原因になります。

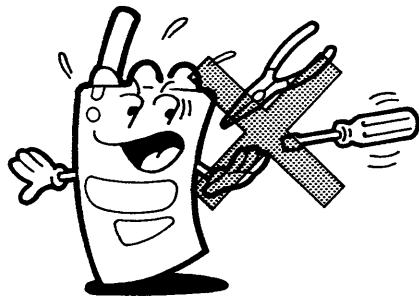
■ご注意

- C** シンナーやベンジンは絶対に使わないでください。



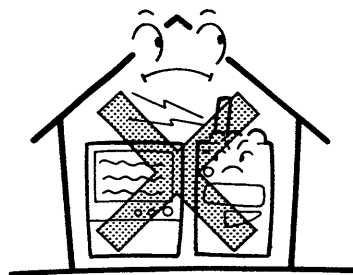
通常は乾いた布で、汚れのひどいときは水で薄めた中性洗剤をひたして拭いてください。

- D** 内部のコアやトリマーをさわらないでください。



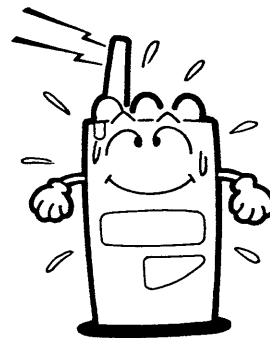
完全調整していますので、取扱説明書で指定していないところをさわると故障の原因になります。

- E** 室内で送信すると電波障害を起こすことがあります。



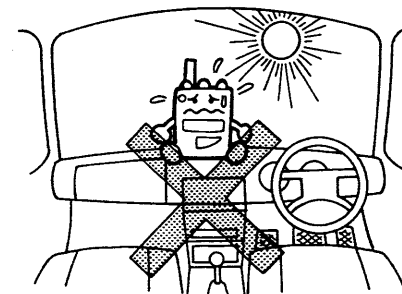
室内で送信するときは、外部アンテナをご使用ください。

- F** 長時間送信すると熱くなりますが、異常ではありません。



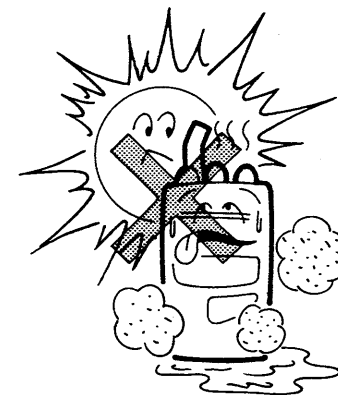
本機の背面が放熱板になっていますので、温度は上昇しますが故障ではありません。

- G** 直射日光のあたるところに長時間放置しないでください。



車のダッシュボード上に放置すると、温度が上昇して本機に悪影響を与えます。

- H** 高温、多湿やホコリの多いところでの使用はさけてください。



2-1 上面操作パネル

■アンテナコネクター

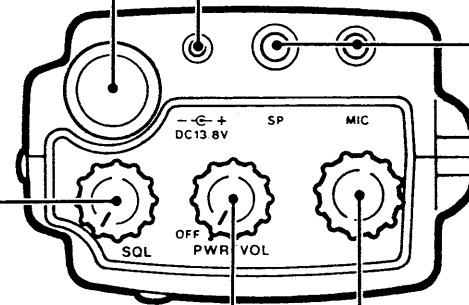
付属のアンテナを接続するコネクターです。
BNCコネクターを使用すれば、外部アンテナが接続できます。

■SQL (スケルチ) ツマミ

無信号時の“ザー”という雑音を消去するツマミです。(P8)

■PWR (電源)/VOL (音量)

電源のON/OFFと音量を調整する(P8)ツマミです。



■DC13.8V (外部電源) ジャック

外部電源を接続するジャックです。
●車内では、CP-12を使ってシガーライターに接続できます。
●屋内では、付属のBC-74を使って家庭用AC100Vに接続できます。
●DC外部電源(安定化された6~16VのDC電源)に接続する場合は、DCケーブルOPC-254が必要です。

■MIC/SPジャック

外部マイクやスピーカーを接続するジャックです。
外部スピーカーを接続すると、内蔵のスピーカーは動作しません。

■ダイヤル

運用周波数の設定(P9)や、メモリーチャンネルの切り替え(P14)を行うツマミです。

- 外部電源および外部スピーカー/マイクについては、添付のオプション一覧表をご覧ください。

2-2 前面パネル

■Fスイッチ

このスイッチを押しながら、他のスイッチを押すと、各種のファンクションが動作します。

■PTT(送信)スイッチ

送信と受信を切り替えるスイッチです。押し続けている間は送信状態となり、離すと受信状態になります。(P13)

■V/M(VFO:ブイエフオー/メモリー切り替え)スイッチ

周波数を設定するVFOモードとメモリーを運用するメモリーモードを切り替えるスイッチです。(P9)

■MW(メモリーライト)スイッチ

メモリー書き込み用スイッチです。Fスイッチを押しながら、このスイッチを押すと、メモリーチャンネルに周波数を記憶させることができます。(P15)

■Sスイッチ

次ページ(P7)をご覧ください。

■送信/受信ランプ

送信時は赤色に、受信時(信号を受信しているときおよび雑音があるとき)は緑色に点灯します。

■LIGHT(ライト)スイッチ

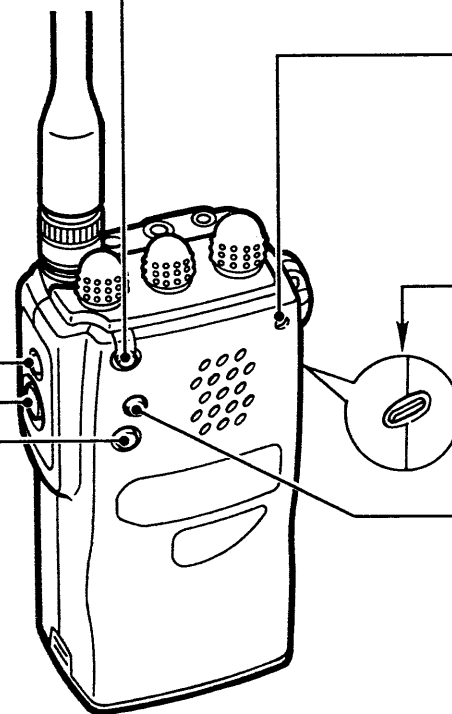
ディスプレイの照明をON/OFFします。通常は点灯後約5秒で消灯します。

■MONI(モニター)スイッチ

弱い信号などを受信したとき、このスイッチを押しながら受信すると、聞きやすくなります。

■DSEL(ダイヤルセレクト)スイッチ

Fスイッチを押しながら、このスイッチを押すと、ダイヤルセレクト状態になります。(P10)

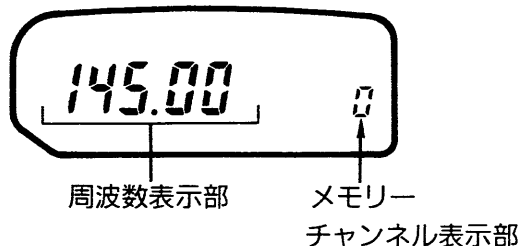


ディスプレイについては、次ページ(P7)をご覧ください。

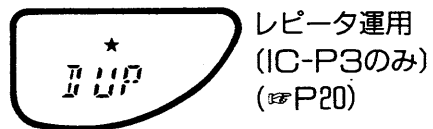
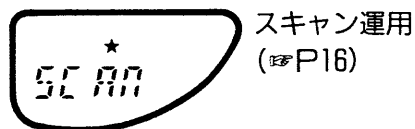
2-3 ディスプレイとSスイッチについて

1. ディスプレイ

■ディスプレイA

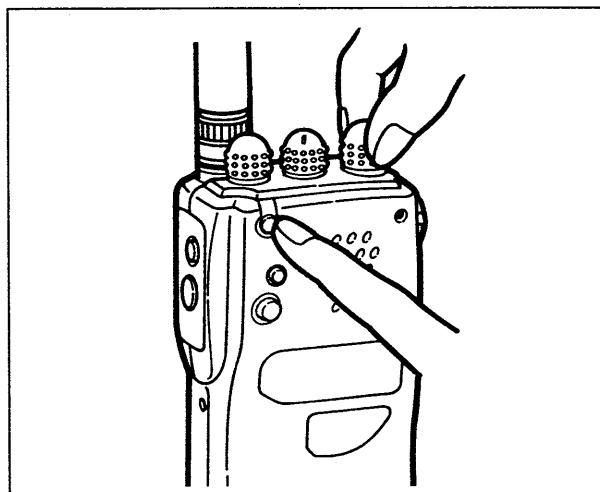


■ディスプレイB (ファンクション表示部)



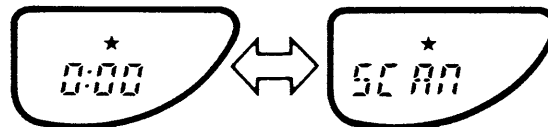
2. Sスイッチのはたらき

SスイッチでディスプレイBの表示を切り替える



Sスイッチを押し続けながらダイヤルを回します。

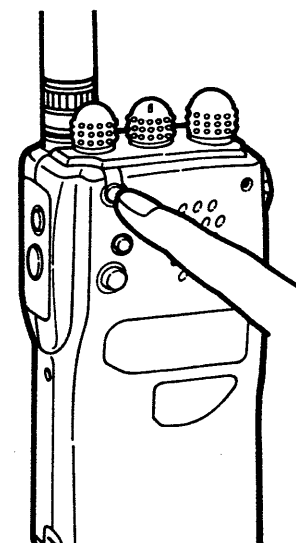
※この操作中は、表示が点滅します。



- “SCAN”表示でスキャンの運用ができます。
- “DUP”表示でレピータの運用ができます。(IC-P3)

Sスイッチのワンタッチ操作で表示機能の運用に入る

例えば、ディスプレイBを“SCAN”表示にしておけば



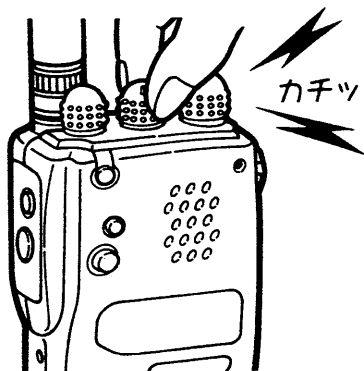
Sスイッチをワンタッチすることによりスキャンがスタート/ストップします。(☞P15~19)

3 基本操作のしかた

3-1 電源のON/OFF、音量・スケルチの調整

1. 電源のON/OFF

PWR/VOL を時計方向にまわす。



※OFFにする時は反時計方向にまわします。

●IC-P2電源投入時の表示

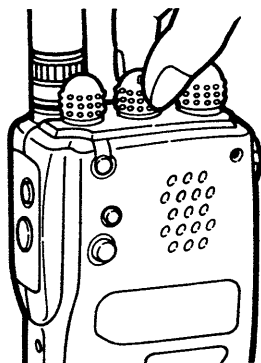


この表示は初期の表示で、以後は電源を切る前の状態が表示されます。

※以下のページでは、IC-P2の表示例として説明しています。(一部例外有り)

2. 音量の調整

PWR/VOL をまわす。



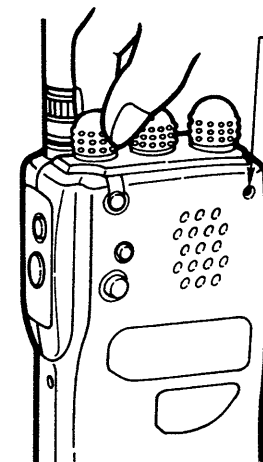
※右方向で音量が大きくなり、左方向で小さくなります。

●IC-P3電源投入時の表示



3. スケルチの調整

SQL をまわす。



受信ランプ
(緑色)が
消灯する
位置に
合わせる

※“ザー”という雑音が消える位置までツマミをまわします。

※スケルチは、信号の出していない周波数にして調整してください。

各種のスキャン動作時に必ずスケルチの調整が必要です。
この調整が行われていないとスキャン動作が確実にできません。

3-2 周波数の設定のしかた

■VFOモードとメモリーモードについて

1. 周波数を設定するときは
VFOモードにする

(VFOモードの表示)



MR が消灯

2. メモリーチャンネルを運用するときはメモリーモードにする

(メモリーモードの表示)

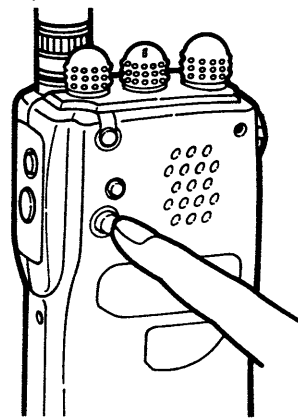


点灯

メモリーチャンネルの使いかたは
P14をご覧ください。

1. 周波数を設定するとき はVFOモードにする

VFOモードとメモリーモードの切り替えは、**V/M**スイッチで行います。



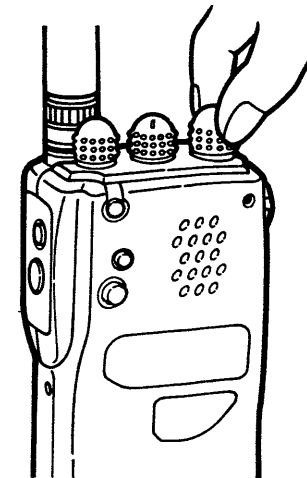
MR を消灯させる



初期時はVFOモードです。

2. ダイヤルを回す

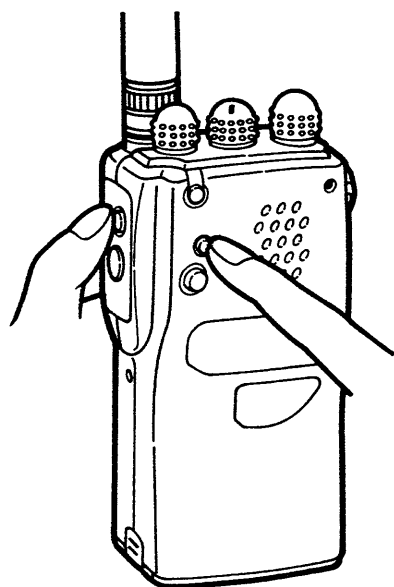
ダイヤルを回すと、周波数が20kHzの幅で変化します。



3-3 周波数を大きく変えたいとき

1. ダイヤルセレクトで(1MHz/100kHzステップ)をあらかじめ指定しておく

1. **F**スイッチを押しながら
2. **D SEL**スイッチを押す。



Fを押し続けながら **D SEL**を1回押すごとに、右のように“-”と“▶”印の表示が切り替わります。

①1MHzステップにしたいときは



表示をこの位置に

②100kHzステップにしたいときは



表示をこの位置に

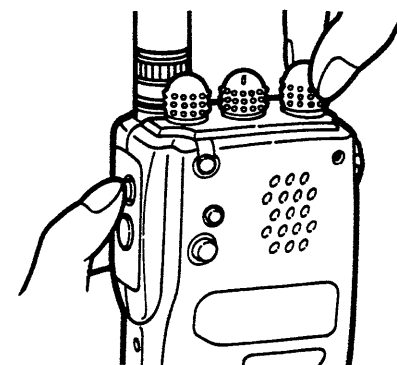
③VFOのままメモリーチャンネルの番号だけを切り替えるには



※③については(☞P14)をご覧ください。

2. 1MHz/100kHzステップの使いかた

1. **F**スイッチを押しながら
2. **ダイヤル**を回す。



例えば、左図②にセットしている場合は、上記の操作で100kHz桁が可変します。



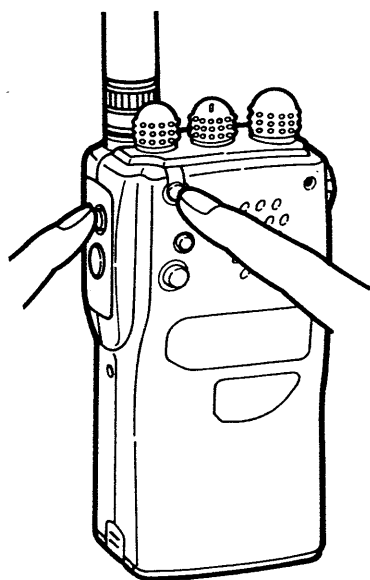
この桁が動く

3-4 時刻の合わせかた 〈午前9時30分をセットする場合〉

本機の時計機能は0:00~23:59を表示する24時間時計です。初期時は、ディスプレイBには時刻が表示されています。ディスプレイBが時計表示になっていないときは、**[S]**スイッチを押し続けながら、**ダイヤル**を回して時計表示にします。

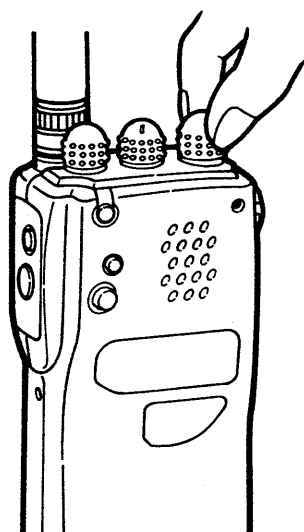
1. 時計セットモード

[F]を押しながら
[S]を押す。



2. “時”をセット

ダイヤルをまわして
“9”をセットする。

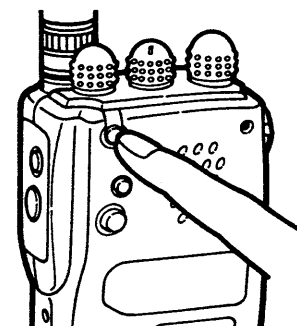


※時計方向でアップ、
反時計方向でダウンします。

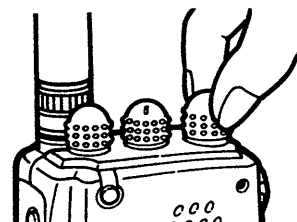


3. “分”をセット

[S]を押す。

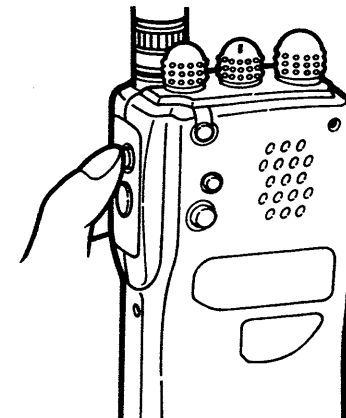


ダイヤルを回して
“30”をセットする。



4. 終了

[F]を押す。



※時報に合わせて**[F]**を押すと
正確なセットができます。

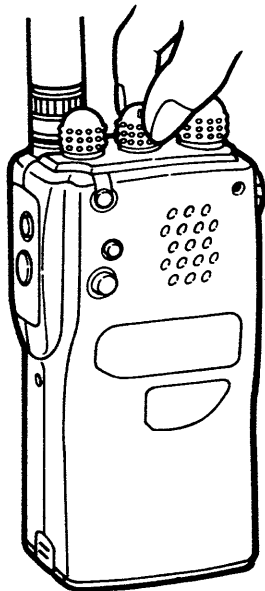


点滅開始

3-5 受信のしかた

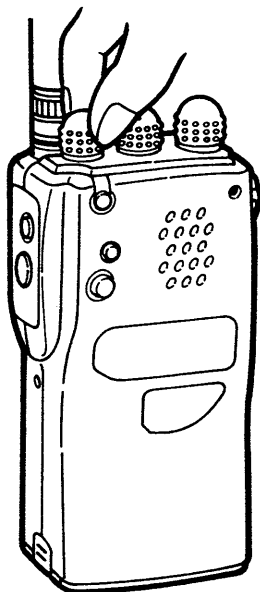
1. 電源ONと音量調整

1. **PWR/VOL** を回し電源を入れる。
2. **PWR/VOL** をさらに回し、音量を聞きやすいところにセットする。



2. スケルチを調整する

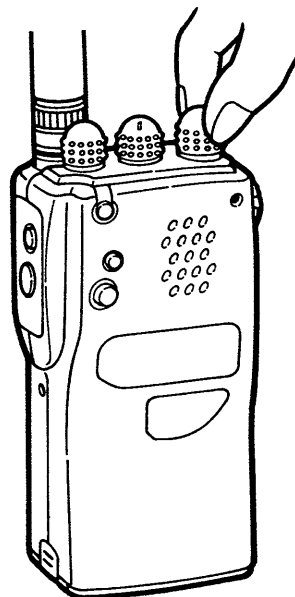
SQL を回し、雑音の消える位置にセットする。



※あまり右に回しすぎると弱い信号を受信することができません。

3. 周波数を設定する

ダイヤル を回す。
※VFOモードを確認する。



信号を受信すると

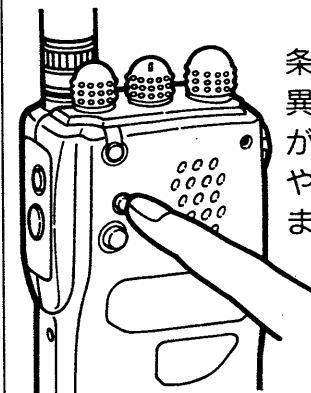
受信ランプが緑色に点灯し音声が聞えてきます。



受信の強さを表示する (Sメーターとなります)

弱い信号を受信したり、受信音がとぎれたりするとき

MONI スイッチを押しながら受信してください。



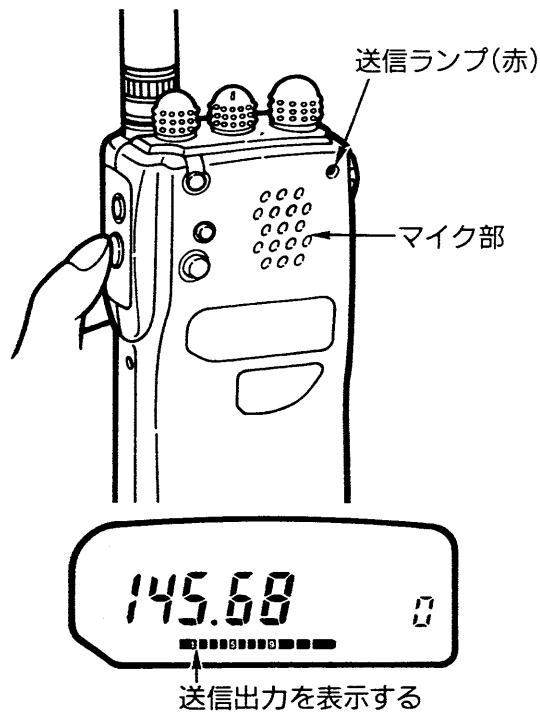
条件により異なりますが、聞こえやすくなります。

3-6 送信のしかた

送信する前は、その周波数を他局が運用していないか確認し、妨害、混信等をあたえないように十分にご注意ください。

■送信のしかた

1. 交信する相手局の周波数を設定し、
2. **PTT** を押しながらマイク部に向かって話す。



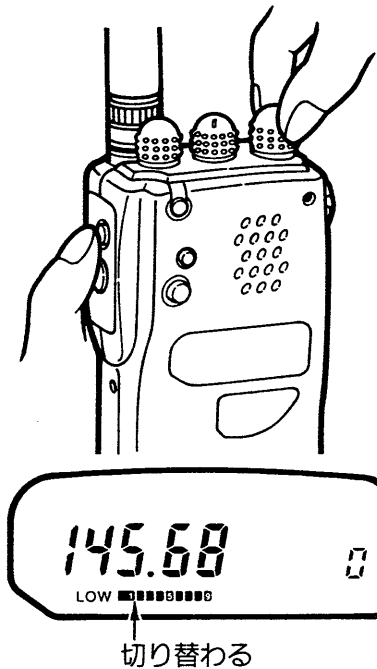
会話が終了したら

PTT を離します。

■送信出力の設定のしかた

本機の送信出力は、4段階に切り替えることができます。運用条件に合わせて、最適なパワー(送信出力)が選べます。

1. 切り替えかた
F スイッチと **PTT** スイッチを押しながら **ダイヤル** を回す。



2. 送信出力と表示の関係



表示	出力 (7.2V時)	出力 (13.8V時)
LOW 1 LOW ■	約0.5W	約0.5W
LOW 2 LOW ■■■■	約1.5W	約1.5W
LOW 3 LOW ■■■■■■	約1.5W	約3.5W
HIGH ■■■■■■■■	約1.5W	約5.0W

送信出力は、必要以上に大きくせず、近距離交信などでは、できるだけ小さいパワーにすることが、電池を長持ちさせることとなります。

4 メモリーチャンネルの使いかた

4-1 メモリーチャンネルの呼び出しかた

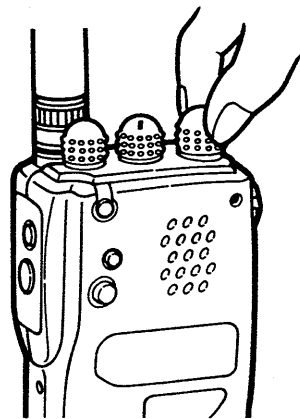
よく使用する周波数は、あらかじめメモリーチャンネルに記憶しておくことができます。

ダイヤルで設定するよりも必要なときに、このメモリーチャンネルを呼び出すことでスピーディな運用ができます。

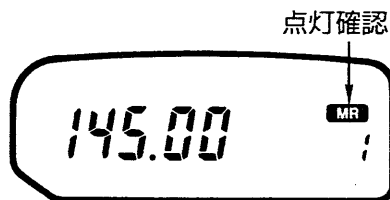
- メモリーチャンネルは、100CHあります。
 - スキャン用のメモリーが別に2CHあります。
 - 初期時は10～99CHは、何も記憶されていないブランクCHとなっています。
- 1～9CHには、
145.00MHz(IC-P2)
433.00MHz(IC-P3)
が記憶されています。

ダイヤルで呼び出す

1. **V/M** を押し、メモリーモードにする。
2. **ダイヤル** を回す。

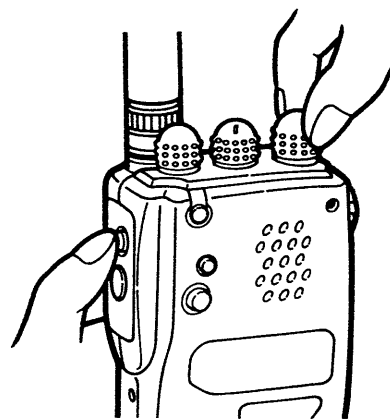


周波数が記憶されているチャンネル(初期時は0～9ch)のみ呼び出せます。

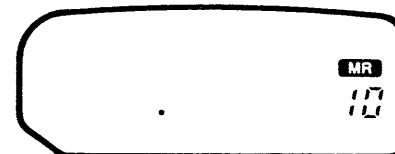


F+ダイヤルで呼び出す

1. **V/M** を押し、メモリーモードにする。
2. **F** スイッチを押しながら **ダイヤル** を回す。



周波数が記憶されていないチャンネルも呼び出すことができます。(初期時は、10～99chはブランク)

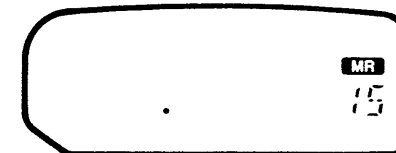


VFOモードで呼び出す

1. ダイヤルセレクトモードの③(P10)を指定する
2. **V/M** を押し、VFOモードにする。
3. **F** スイッチを押しながら **ダイヤル** を回す。



4. ↓ メモリーチャンネル呼び出し後 **V/M** を押す。



(初期時は10～99chはブランクになっています。)

4-2 メモリーチャンネルに記憶させるには

(例)
メモリーチャンネルの
8CHに
144.80MHzを
記憶させる

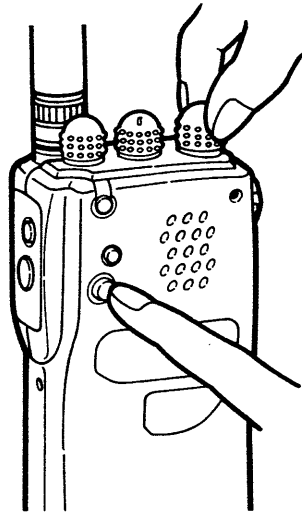
※右の操作例は、標準的な
操作です。

メモリーチャンネルの呼
び出しかたには14ページ
の1~3まで3とおりがあ
りますのでご注意ください。

※空白CHを呼び出し
たときは、VFOモード
にすれば、VFO周波数
が表示されますから、記
憶させたい周波数のセッ
トができます。

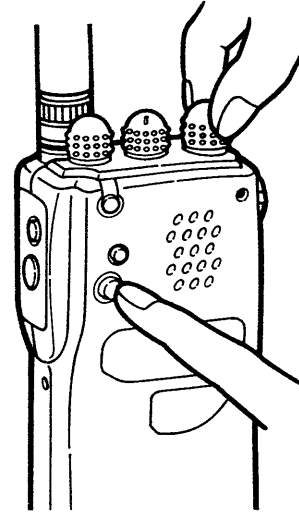
1. CH-8を呼び出す

1. **V/M** を押し、メモリー
モードにする。
2. **ダイヤル** を回し、チャ
ンネルを“8”にする。



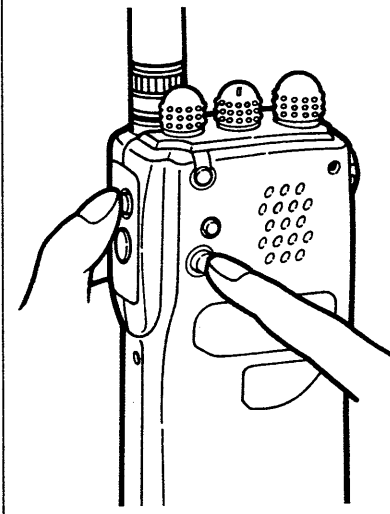
2. 144.80MHzをセット

3. **V/M** を押し、VFOモ
ードにする。
4. **ダイヤル** を回し、
“144.80”をセット。



3. 記憶させる

5. **F** を押しながら
V/M (MW) を
“ピッピピ”と音が出るま
で押す。(約1秒程度)



5

スキヤンのしかた

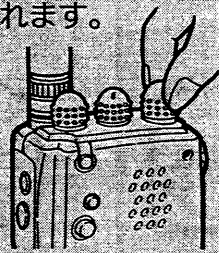
5-1 スキヤン操作を行う前に

スキヤンとは、周波数やメモリーチャンネル(M-CH)を自動的に切り替えて、信号の出ているところを探す機能です。

スキヤンを行うときには、ディスプレイB(下段表示部)を“SCAN”表示にしなければ、スキヤンは動作しません。

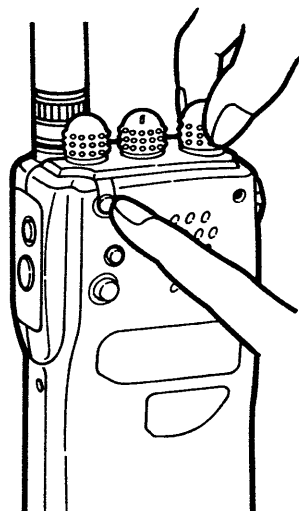
■スキヤン中のダイヤルのはたらき

- スキヤン中にダイヤルをまわすと、そのまわした方向で、アップスキヤンとダウンスキヤンが切り替えられます。
- 信号受信で停止しているときにダイヤルをまわすと、再スタートします。この機能はすべてのスキヤンに有効です。



■ディスプレイBをSCAN表示にする

1. **S**スイッチを押し続けながら **ダイヤル** を回す。



Sスイッチを押し続けていると約1秒後にディスプレイBが点滅状態になりますので、**S**スイッチをそのまま押しながら **ダイヤル** を回してください。

2. “SCAN”表示にする

1.の操作を行いますと、ディスプレイBが切り替わりますので、“SCAN”表示にしておきます。

スキヤン運用表示にする

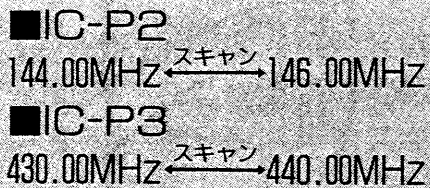


この表示になっていなければ、各種のスキヤンをスタートすることができません。

5-2 フルスキャンのしかた

フルスキャンとは

本機のもつ運用周波数帯のすべてをスキヤンします。



このスキヤンは、周波数を自動的に切り替えて行うスキヤンですから、VFOモードにしてください。

1. 準備と確認

1. **V/M** を押しVFOモードにする。
2. **SQL** を調整する。
3. ディスプレイBの“SCAN”点灯を確認。

ディスプレイA
VFOモード

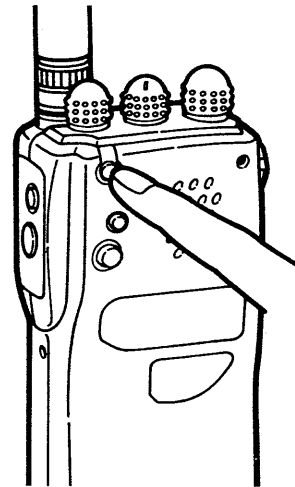


ディスプレイB



2. スタート

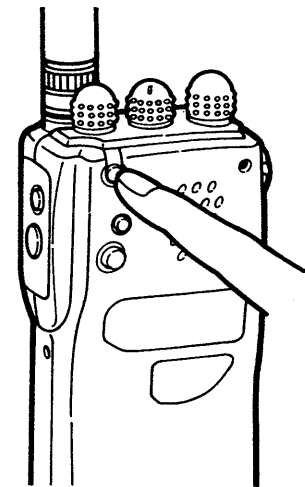
S を押す。(ワンタッチ)



- 信号を受信すると、その周波数で10秒間受信します。10秒たつと次の信号をとらえるために自動的に周波数を切り替えていきます。
- 信号受信中にダイヤルを回すと、再スタートします。
- スキヤン中に **F** を押すと、押している間はスキヤンが停止します。

3. ストップ

S を押す。(ワンタッチ)



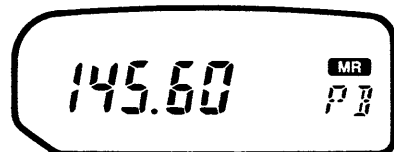
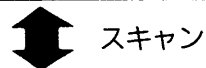
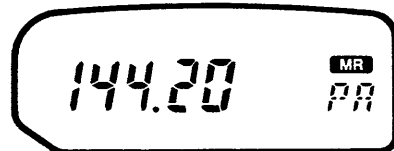
- 信号受信で一時停止しているときに、その周波数を長くワッチしたいときは、ストップ操作で停止させます。

5-3 プログラムスキャンのしかた

プログラムスキャンとは
スキャンしたい周波数範囲
をあらかじめ指定して、そ
の範囲内をスキャンします。

周波数範囲は、プログラム
スキャン用エッジ周波数(メ
モリーチャンネルのPAと
PB)に上限・下限周波数を
セットします。

例(IC-P2の場合)

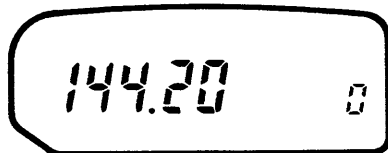


このスキャンもVFOモー
ドで行います。

1. 準備と確認

1. メモリーの“PA”と“PB”
にスキャン範囲となる周
波数を記憶させておく。
(P15)
2. **V/M** を押し、VFO
モードにする。
3. **SQL** を調整する。
4. ディスプレイBの
“SCAN”点灯を確認。

ディスプレイA
VFOモード

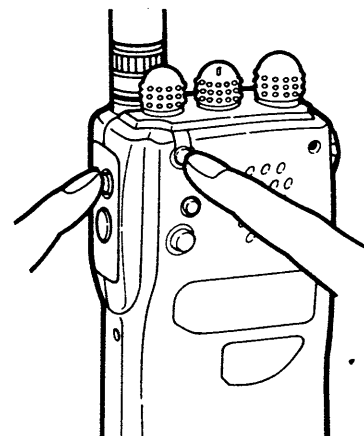


ディスプレイB



2. スタート

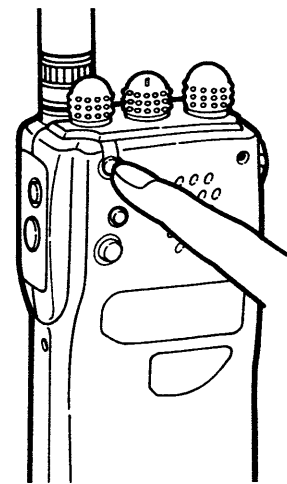
- F** を押しながら、
S を押す。



- 信号を受信すると、その周波
数で10秒間受信します。
10秒たつと次の信号をとらえ
るために自動的に周波数を切り
替えていきます。
- 信号受信中にダイヤルを回す
と、再スタートします。
- スキャン中に **F** を押すと、押
している間はスキャンが停止
します。

3. ストップ

- S** を押す。(ワンタッチ)

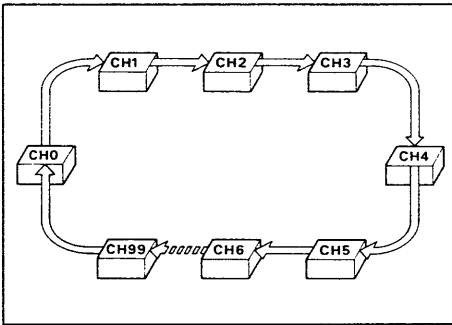


- 信号受信で一時停止してい
るときに、その周波数を長くワ
ッチしていたいときは、スト
ップ操作で停止させます。

5-4 メモリースキヤンのしかた

メモリースキヤンとは
メモリーチャンネルを順次
に切り替えて信号のでてい
る周波数を探し出します。

0~99CHの範囲で周波数の
記憶されているすべての
メモリーチャンネルをスキ
ヤンします。



2ヶ以上のCHに違った周
波数を記憶させてください。
このスキヤンは、メモリー
モードで行います。

1. 準備と確認

1. **V/M** を押しメモリーモードにする。
2. **SQL** を調整する。
3. ディスプレイBの“SCAN”点灯を確認。

ディスプレイA
メモリーモード

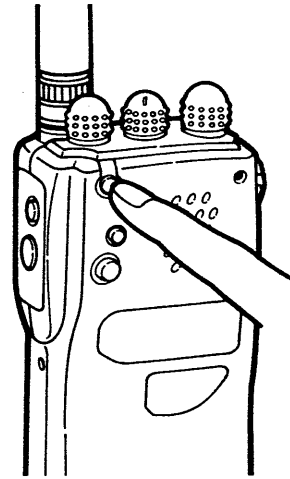


ディスプレイB



2. スタート

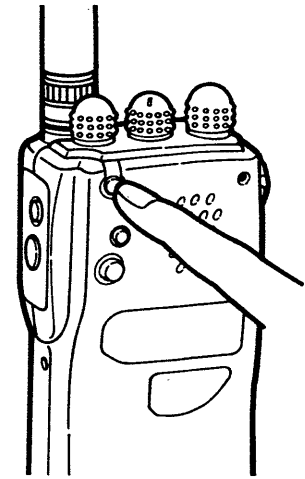
S を押す。(ワンタッチ)



- 信号を受信すると、その周波数で10秒間受信します。10秒たつと次の信号をとらえるために自動的にメモリーを切り替えていきます。
- 信号受信中にダイヤルを回すと、再スタートします。
- スキヤン中に**F**を押すと、押し続けている間はスキヤンが停止します。

3. ストップ

S を押す。(ワンタッチ)



- 信号受信で一時停止しているときに、その周波数を長くワッチしたいときは、ストップ操作で停止させます。

6 レピータの使いかた(IC-P3)

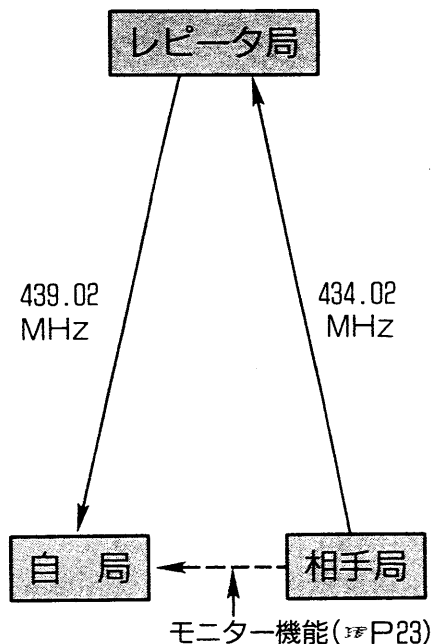
6-1 レピータの使いかた

レピータとは

山や建物などの障害物で、直接交信できない局との交信を可能にする自動無線中継局です。

本機ではレピータをアクセス(起動)するために必要なトーン周波数(88.5Hz)と、オフセット周波数(5MHz)、シフト方向(マイナス)を標準設定していますので、簡単にレピータを運用できます。

また、交信相手局がレピータを通さずに交信できる範囲にいるかを確認できる送信モニター機能があります。(P23)

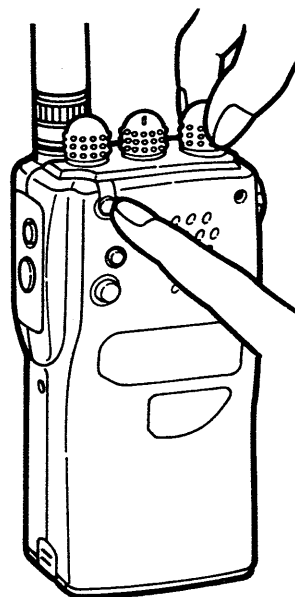


レピータの入出力周波数は地域によって異なりますので、JARL NEWSや専門誌などでお調べください。また、調べたレピータ情報をメモリーチャンネルに書き込んでおくとう便利です。レピータは、多くの局が使用しますので、できるだけ小電力で手短かに交信してください。

※IC-P2では、レピータの運用はできません。

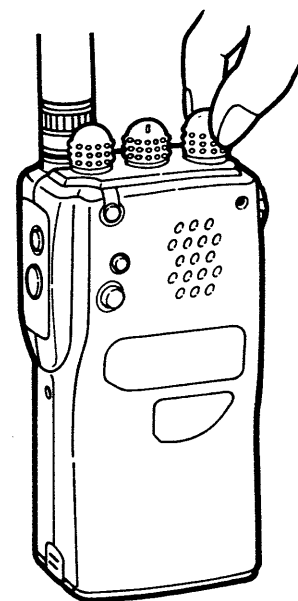
1. “DUP”表示にする

[S]を押し続けながら
ダイヤルを回す。



2. 周波数をセット

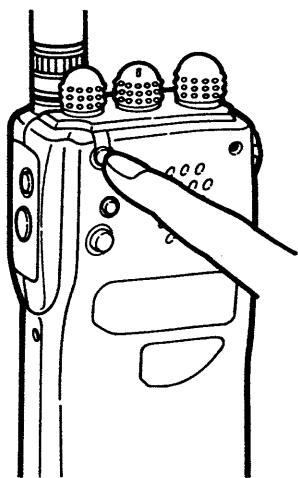
周波数をセットする。



3. レピータモードにする

[S]を押す。

※ディスプレイBの“DUP”
点灯を確認

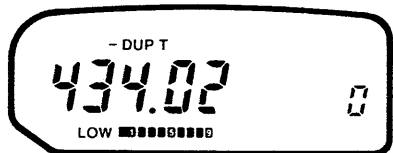
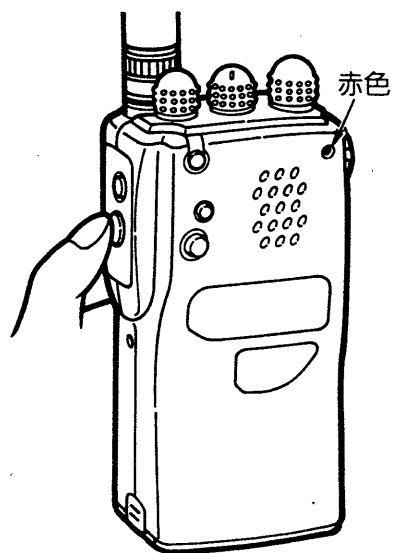


※“-DUP T”点灯



4. アクセスする

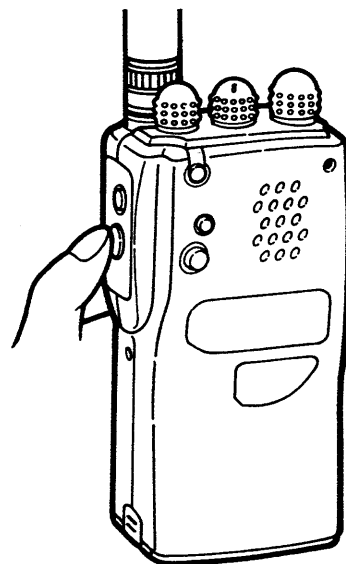
約2秒間、[PTT]を押す。



※発射した電波がレピータに届けば
ID信号(モールス符号)または音声
が受信状態で聞えます。

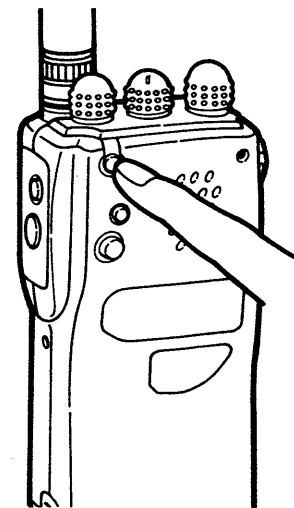
5. 交信する

[PTT]を押すと送信。
はなすと受信。



6. 終了する

[S]を2回押し、
-DUP Tを消す。



※VFOモードに戻ります。

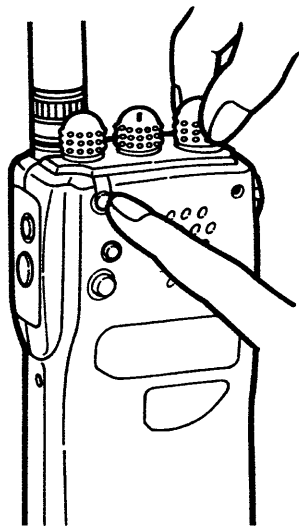


6-2 レピータ情報をメモリーさせるには

1. 準備

ディスプレイBを“DUP”にする。

1. **S**を押し続けながら
ダイヤルを回す。



2. メモリーを呼び出す

2. 記憶させたいメモリー
チャンネルを呼び出す。

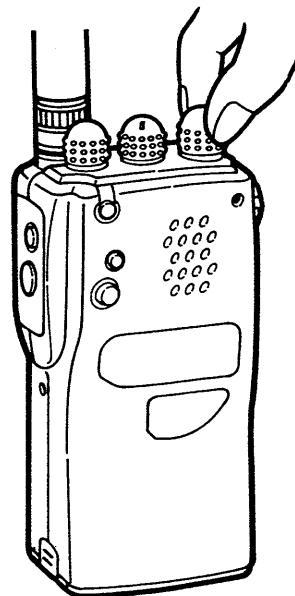


3. VFOモードにする



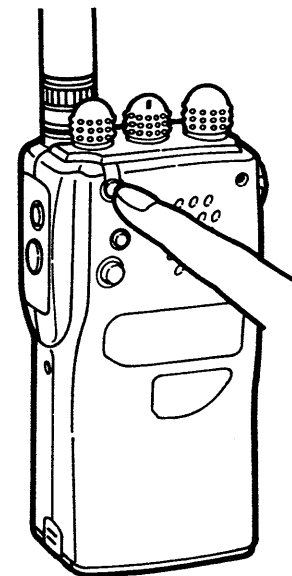
3. 周波数をセットする

4. **ダイヤル**でセットする



4. -DUP Tをセットする

5. **S**を押す。



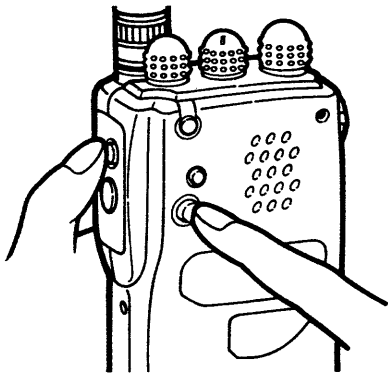
※ディスプレイBが“DUP”表示になっていること。



6-3 レピータ運用のその他の機能

5. 記憶させる

6. **F**を押しながら
M/Wを“ピッピ”
と鳴るまで押す。



レピータをメモリーチャンネルで運用するときは

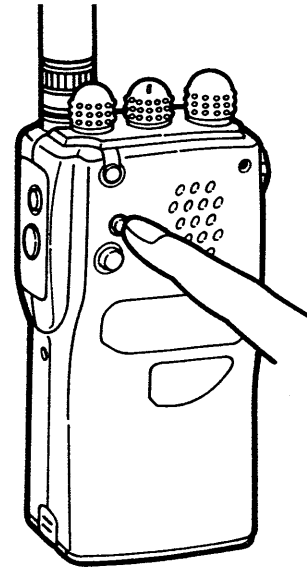
1. メモリーチャンネルを呼び出す。
2. 21ページの4の操作から入る。

※ディスプレイは“DUP”表示にしなくてもよい。

送信モニターについて

相手局の電波を、レピータを通さずに直接受信できるかを確認することができます。

MONI/D.SELを押しながら、相手局の信号を確認してみる。



※相手局の信号を直接受信できれば通常交信が可能です。

※相手局が通常の交信エリアにいる場合は、できるだけレピータ運用をさけましょう。

設定を誤ると

まちがったレピータ周波数をセットしたり、あやまってレピータモードにして、送信周波数がハムバンドから逸脱したとき、送信時に下のような表示がされ、送信動作ができなくなります。

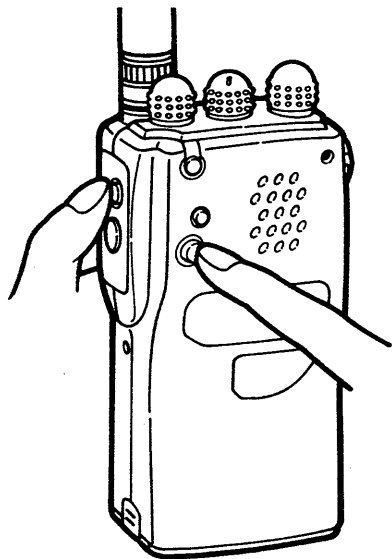
※設定を確認してください。



メモリーをVFOへ転送

メモリー周波数の周辺を受信したいときに便利です。

1. メモリーモードにする。
2. 希望のチャンネルを呼び出す。
3. **[F]**を押しながら **[V/M]**を1~2秒押す。

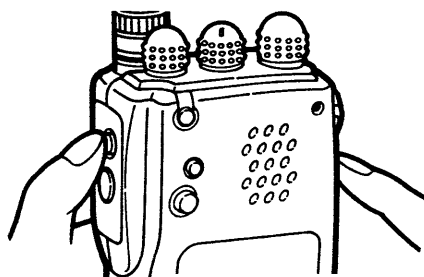


※ **[MR]**が消灯し、VFOモードになります。

ダイヤルロック機能

不注意でダイヤルに触れても、周波数やメモリーチャンネルを変わらなくします。

1. **[F]**を押しながら **[LIGHT]**を押す。



※長時間、同じ周波数で運用するときに便利です。

ロック表示



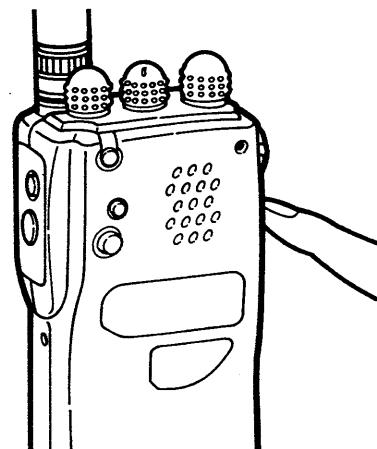
同じ操作で解除できます。

※ **[VOL]**、**[SQL]**、**[LIGHT]** および **[PTT]**の操作はできません。

照明のON/OFF

夜間など暗い場所での表示を見やすくするディスプレイランプの操作です。

1. **[LIGHT]**を押す。



※点灯後、約5秒で自動消灯します。
ダイヤル操作中は、消灯しません。

コールチャンネルについて

本機には、バンドの呼び出し周波数：コールチャンネルをワンタッチで呼び出す機能はありません。

メモリーチャンネルに呼び出し(コール)周波数を記憶させ、コールチャンネルとしてご利用ください。

コールチャンネル周波数

IC-P2 : 145.00MHz
IC-P3 : 433.00MHz

8-1 電池について

(1)電池の充電時期

電池の容量が低下すると、ディスプレイの表示が全体的にうすくなってきます。このような状態になりますと、運用ができなくなりますから、充電を行ってください。

電池の電圧が低下すると、送信出力が減少したり、本機の性能を十分に発揮させることができません。

(2)運用時間の目安

送信1分間、受信1分間、待ち受け8分間を繰り返し運用した場合の消費時間は、表のようになっています。

電池の名称	電圧 (V)	消費時間(H)	
		IC-P2	IC-P3
BP-111	7.2	約 3.6H	約 2.6H
BP-112	7.2	約 6.3H	約 4.6H
BP-113	7.2	約10.0H	約 7.3H
BP-114	12	約 2.6H	約 2.0H

BP-111以外はオプションのバッテリーパックです。

電池寿命を長くするために

- できるだけ、LOWパワーで運用する。
- 送信時間をできるだけ短くする。
- 受信音量を小さくする。
- 使用しないときは、必ず電源を切っておく。
- 連続使用をさける。

(3)NiCd電池の寿命について

付属またはオプションのNiCd電池は、通常約300回程度の充電が可能です。

運用時間が極端に短くなったときが寿命です。

(4)乾電池のご使用について

乾電池は、気温が低下するほど容量の減少が著しくなります。通常、乾電池の使用可能な温度の下限は、 -10°C とされていますから、寒冷地でご使用になる場合は、電池部分を暖かくして(充分保温する)ご使用ください。

また、本機は高出力タイプですから、なるべく高容量のアルカリ電池をおすすめします。

8-2 充電のしかたと外部電源

本機には、ニッカド電池BP-111と、充電器BC-74が付属されています。BC-74は、他のオプションバッテリーパックBP-112~BP-114も充電することができます。

右図は、BC-74およびオプションの充電器を使用して充電する方法を示しています。

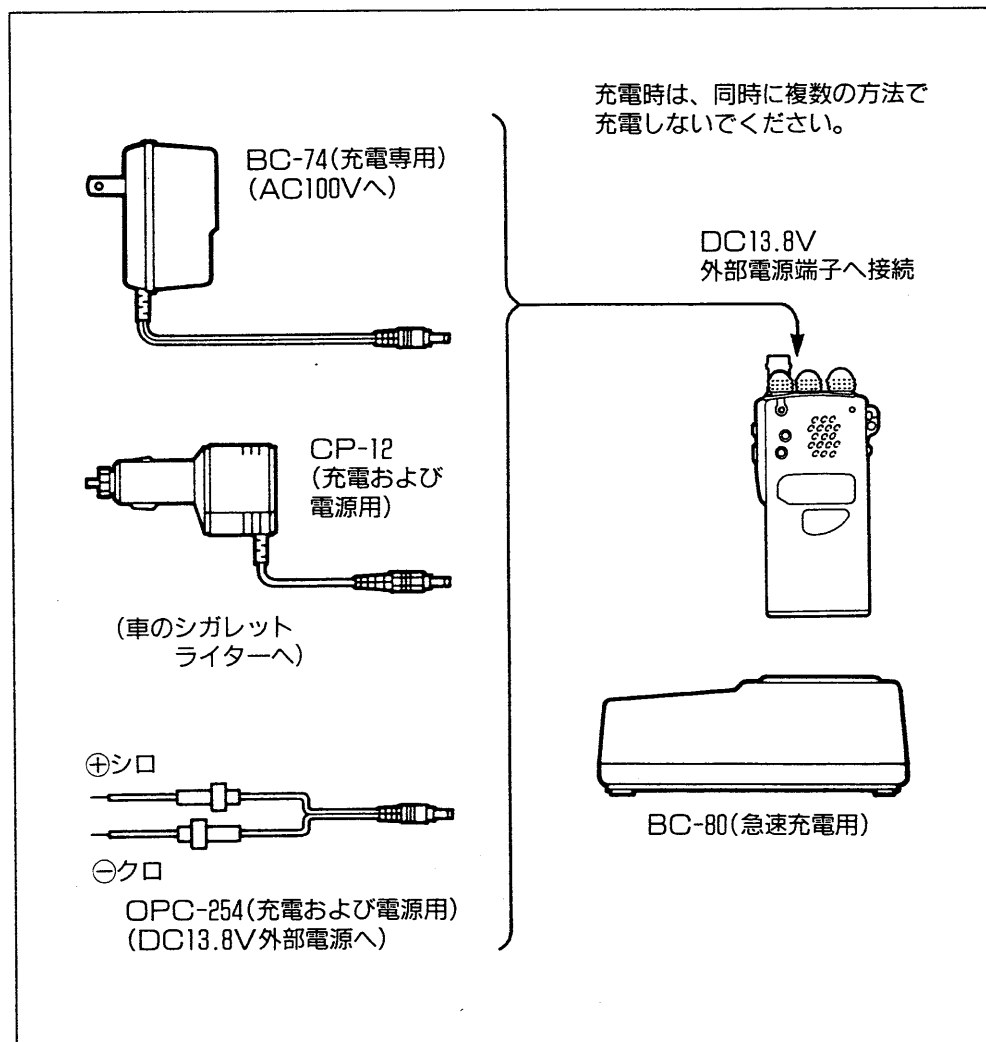
BC-74, CP-12, OPC-254を使つての充電時間は、約15時間です。

■充電器について

- ①BC-74はBP-111~BP-114のすべてのバッテリーパックを充電できます。
- ②CP-12は車内で運用する場合、シガレットライターに接続するためのものです。
- ③OPC-254は、お手持ちのDC13.8V外部電源装置に接続するためのケーブルです。
- ④BC-80は、デスクトップ型急速充電器で約1~2時間で充電します。なお、BC-80は前シリーズのバッテリーパックBP-81~BP-85も充電できます。

■充電器についてのご注意

- 前シリーズの急速充電器BC-72を使つて充電することはできません。
- 前シリーズの充電器BC-73は、BP-111のみ充電できますが、BP-112~BP-114の充電はできません。
- 乾電池で運用するときは、絶対に充電しないでください。また、外部電源の接続もおやめください。
- その他、指定以外の充電器は、使用しないでください。



8-3 リセット操作について

本機を運用中、ディスプレイの表示内容がおかしくなった場合は、CPUの誤動作、静電気などの外部要因が考えられます。このようなときは、いったん電源を切り、数秒後に入れなおしてください。

それでも異常があれば、右のようにリセット操作を行ってください。

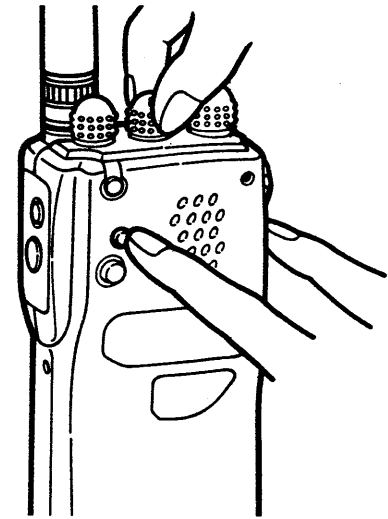
※リセット操作を行いますと、メモリーチャンネルに記憶された内容が、下表のように初期値に戻りますのでご注意ください。

リセット後の内容

項 目	IC-P2	IC-P3
VFO/メモリーモード	VFOモード	VFOモード
M-CH	0に戻る	0に戻る
VFO周波数	145.00	433.00
M-CH (0~9) 周波数	145.00	433.00
(10~99) 周波数	ブランク	ブランク
ディスプレイB	0:00	0:00

リセットのしかた

1. 電源をOFFする
2. LIGHT と MONI を押しながら PWR/VOL をまわし電源をONにする。



● IC-P2初期状態



● IC-P3初期状態



メモリーの内容が消えているときは

■本機には、電源を切ってもメモリーの内容が消えないように、リチウム電池が内蔵されています。リチウム電池は、バッテリーパックや外部電源から自動的に充電されていますから、電源を切っても、CPUのバックアップを行っています。

■リチウム電池は、バッテリーパックや外部電源から電源が供給されています。バッテリーパックが完全に放電されたままの状態、1週間以上放置しますと、リチウム電池の容量もなくなり、メモリーの内容が消えてしまいます。

リチウム電池の復旧処置

1. 通常の充電(☞P26)を行ってください。
約1時間でリチウム電池は復旧します。
2. リセット操作(☞P27)を行ってください。
3. メモリーチャンネルに、再度記憶(☞P15)させてください。

機械が故障のときは

商品に万一不具合な点があったり、故障が生じたときは、必要な事項を記入した保証書と、具体的な症状を明記のうえ、お買い上げの販売店もしくは弊社サービスステーションへご持参ください。なお、保証規定につきましては、保証書をよくお読みください。

8-4 故障かな?と思っても

本機の品質には万全を期しております。下表にあげた状態は故障ではありませんので、修理に出す前にもう一度点検してください。下表に従って処置してもトラブルが起るときや、他の状態のときは弊社サービス係まで、その状況を具体的にご連絡ください。

状 態	原 因	対 策
○電源が入らない	○バッテリーパックの接触不良 ○電池の消耗 ○乾電池の極性のまちがい	○バッテリーパックの電極のよごれなどを確認する ○NiCd電池の場合は充電を行う 乾電池の場合は新しい電池と取り換える ○極性を確認して乾電池を入れなおす
○スピーカーから音がでない	○VOLツマミが反時計方向になっている ○スケルチを右に回しすぎ ○外部スピーカーマイク、イヤホンを使っている ○電池の消耗	○VOLツマミを時計方向に回して適当な音量にする ○SQLツマミを反時計方向に回し、雑音が聞こえ出す直前にセットする ○スピーカーマイク、イヤホンのプラグが奥まで正常に接続されているか、リード線が断線していないかを調べる ○交換または充電を行う
○感度が悪く強い局しか聞こえない (外部アンテナ使用時)	○アンテナ(外部)ケーブルの断線またはショート	○アンテナケーブルを調べ正常にする
○変調がかからない (外部マイクの場合)	○マイクプラグの接触不良 ○マイクのリード線の断線	○マイクプラグを点検する ○リード線を少し切りハンダ付けをやり直す
○電波が出ないか電波が弱い	○アンテナ(外部)ケーブルの断線またはショート ○送信出力切り替えがLOWになっている ○電池の消耗	○アンテナケーブルを調べ正常にする ○送信出力切り替えをHIGHにする ○充電または交換する
○周波数がセットできない	○ロック機能が働いている ○メモリーモードになっている	○ロック機能を解除し、VFOモードにする ○メモリーモードを解除し、VFOモードにする
○スキャンしない	○スケルチを左に回しすぎ	○SQLツマミを雑音の消える位置にセットする
○メモリーの内容が消える	○リチウム電池の容量がなくなった (バッテリーパックを外して長期間放置していた)	○バッテリーパックまたは、外部電源を接続すると約1時間で充電される メモリーは再度書き込み(記憶)を行う

ディスプレイA/Bに余分な表示が出たときは

1. 本機を使用中に誤操作などで、ディスプレイAおよびBに、余分な記号や、文字が表示されてしまったとき

●ディスプレイAの例



☀内の表示が出る

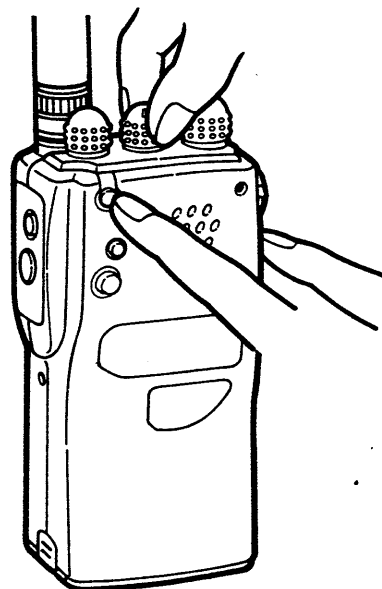
●ディスプレイBの例



★印が1ヶ以上になる
時計、SCAN、DUP(IC-3P)以外の
文字が表示される。

2. 左記1のような表示になった場合は、次の操作を行い、通常状態に戻してご使用ください。

- (1) いったん電源を切る。
- (2) **S**と**LIGHT**を押しながら電源をONにする。



3. 左記2の操作を行うと、通常運用の状態に戻りますが、下記の項目にご注意ください。

■ディスプレイA

- (1) メモリーチャンネル表示は、“0”になる。
- (2) メモリーモードで使用中でも“VFO”モードになる。

■ディスプレイB

- (1) ★印が1ヶだけになる。
- (2) 時計表示になる。

ご 注 意

メモリーチャンネルの内容

- 0~9 CHはそのまま残ります。
- 10~99CHはすべて消去されます。

空中線電力10W以下のアマチュア局の免許または変更（送信機の取り換え、増設）の申請をする場合、JARL（日本アマチュア無線連盟）の保証認定を受けると電気通信監理局で行う落成検査（または変更検査）が省略され簡単に免許されます。

免許申請書類のうち「無線局事項書及び工事設計書」と「アマチュア局免許申請の保証願」は下記の要領で記入してください。免許申請に必要な申請書類はJARL事務局、アマチュア無線販売店、有名書店などで販売しています。その他、アマチュア無線について不明な点は、JARL事務局にお問い合わせください。

○数字のところに下記表から該当する事項を記入してください。

項 目	IC-P2	IC-P3
① 周波数帯	144MHz	430MHz
② 空中線電力	10	10
③ 電波の型式	F3	F3
④ 登録番号・名称	B112S	B113S
⑤ 電波の型式、周波数範囲	F3,144MHz帯	F3,430MHz帯
⑥ 変調の方式	リアクタンス変調	リアクタンス変調
⑦ 終段管の名称	SC-1096×1	SC-1097×1
⑧ 終段管の電圧・入力	7.2V 5.0W	7.2V 4.0W

●無線局事項

21 希望する周波数の範囲，空中線電力，電波の型式

周波数帯	空中線電力 (W)	電波の型式
①	②	③

●アマチュア局免許申請の保証願

11 無線設備等		12 保証認定料
	登録機種の登録番号もしくは名称	3,000円
送 信	第1送信機 ④	標章交付手数料 300円
	第2送信機	標章交付手数料 円
	第3送信機	標章交付手数料 円
	第4送信機	標章交付手数料 円

●工事設計書

22工事設計	第1送信機	
発射可能な電波の型式、周波数の範囲	⑤	
変調の方式	⑥	
終 段 管	名称個数	⑦ ×
	電圧・入力	⑧ V W
送信空中線の型式		

1. 使用区分の表示

アマチュア局の電波を次のように伝送情報等によって表示する。

(1)搬送波をモールス符号により断続した電波は、「CW」とする。

(例：A1電波)

(2)搬送波を音声又はモールス符号により振幅変調した電波（音声等による交信を併用する画像又はデータ通信の電波を含む。）は「AM/SSB」、周波数変調のものについては「FM」とする。

(例：「AM/SSB」：A2、A3、A3J電波等、「FM」：F2、F3電波等)

(3)搬送波をコンピュータ等によって処理した情報により変調した電波は、「データ」とする。

(例：F1(RTTY, パケット等)電波, F2(28MHz以上のバンドにおけるRTTY, パケット等)電波等)

(4)搬送波を画像により変調した電波(ATV電波を除く。)は「画像」、TV電波のうち占有周波数帯幅が40kHzを超えるもの(音声を併用した場合を含む。)については、「ATV」(FSTV)とする。

(例：「画像」：3A4(FAX), 3F4(FAX), 3A9C(FAX), F9(FAX), 3F5(SSTV)電波等、「ATV」：A5, A5C, A9, A9C, F5, F9電波等)

(5)JARLの開設するアマチュア業務の中継用無線局(レピータ局)に使用する電波は、「レピータ」とする。

(6)人工衛星に開設するアマチュア局に使用する電波は、「衛星」とする。

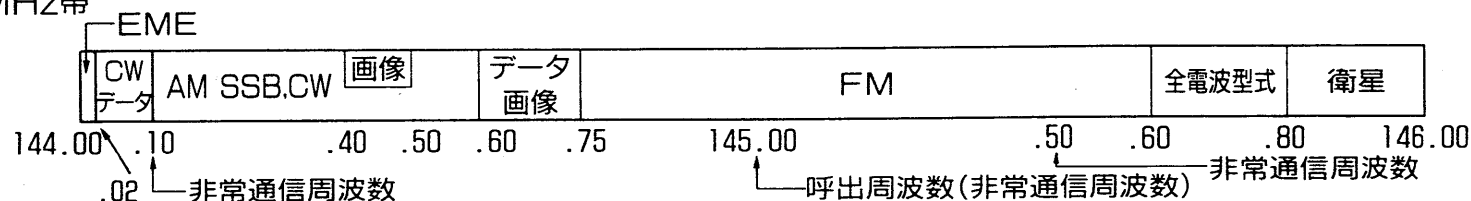
(7)FMの連絡設定用の周波数は、「呼出周波数(非常通信周波数)」とする。

(8)アマチュア局に指定されるすべての電波は、「全電波型式」とする。

(9)月面反射通信, 流星散乱通信, オーロラ反射通信等に使用する電波は、「EME」とする。

(10)標識(パイロット)信号の送信のみを行う場合に使用する電波は、「ビーコン」とする。

2. 使用区分 144MHz帯

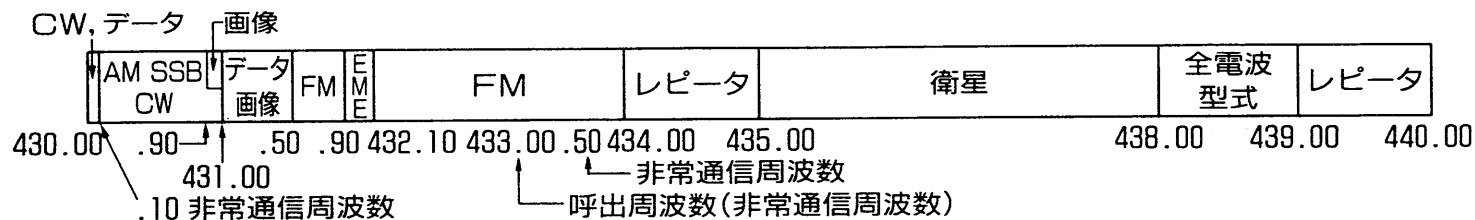


(注1) 144.10-144.20MHzの周波数帯は、主に遠距離通信に使用する。

(注2) データ及び画像通信の区分は、144.60-144.75MHzの周波数帯のものについてはFM送信機、その他の周波数帯のものについてはSSB送信機を使用する。

(注3) 144.75-145.60MHzの周波数帯のFM電波の占有周波数帯幅は、16kHz以下とする。

430MHz帯



(注1) データ及び画像通信の区分は、431.00-431.50MHzの周波数帯のものについてはFM送信機、その他の周波数帯のものについてはSSB送信機を使用する。

(注2) 431.50-434.00MHzの周波数帯のFM電波の占有周波数帯幅は、16kHz以下とする。

(注3) レピータの入出力周波数は、別に定める。

(注4) 435.00-438.00MHzの周波数帯は、平成3年12月31日までは、ATV通信に使用することができる。

〈一般仕様〉

周波数範囲：IC-P2 144~146MHz
IC-P3 430~440MHz

電波型式：F3

メモリーチャンネル数：100ch+スキャンエッジ用2ch

アンテナインピーダンス：50Ω不平衡

アンテナ端子：BNC-R型

電源電圧：DC7.2V標準
DC6~16V接続可

消費電流(DC13.8V時)：IC-P2

送信時	High	1500mA以下
	Low	650mA以下
受信時	最大出力時	250mA以下
	パワーセーブ時	約16mA

IC-P3

送信時	High	1800mA以下
	Low	950mA以下
受信時	最大出力時	250mA以下
	パワーセーブ時	約19mA

接地方式：マイナス接地

使用温度範囲：-10°C~+60°C

周波数安定度：IC-P2
±15ppm以内(-10°C~+60°C)

IC-P3

±5ppm以内(0°C~+50°C)

寸法(突起物含まず)：幅49×高さ105×奥行38.5(mm)

重量：約290g

(ニッカド電池・アンテナ含む)

〈送信部〉

送信出力(DC13.8V時)：High Power 5W
Low Power1 0.5W
Low Power2 1.5W
Low Power3 3.5W

変調方式：リアクタンス変調

最大周波数偏移：±5.0kHz

スプリアス発射強度：-60dB以下

マイクロホンインピーダンス：2kΩ

〈受信部〉

受信方式：ダブルスーパーヘテロダイン方式

中間周波数：第1 30.875MHz
第2 455kHz

受信感度(12dB SINAD)：-16dBμ

スケルチ感度：-20dBμ TYP.

選択度：±7.5kHz以上/-6dB
±15kHz以下/-60dB

スプリアス妨害比：60dB以下

低周波出力：0.2W以上

(DC13.8V、8Ω負荷、10%歪率時)

低周波負荷インピーダンス：8Ω

※測定値は、JAIA(日本アマチュア無線機器工業会)で定めた測定法によります。

※定格、外観、仕様などは、改良のため予告なしに変更することがあります。

高品質がテーマです。

アイコム株式会社

本社	547 大阪市平野区加美東6丁目9-16	
北海道営業所	060 札幌市中央区大通東9丁目14	TEL(011)251-3888
仙台営業所	982 仙台市若林区若林1丁目13-48	TEL(022)285-7785
東京営業所	130 東京都墨田区亀沢1丁目4-18	TEL(03)3621-8649
名古屋営業所	466 名古屋市昭和区長戸町2丁目16-3	TEL(052)842-2288
金沢出張所	921 金沢市高島1丁目335	TEL(0762) 91-8881
大阪営業所	547 大阪市平野区加美南1丁目8-35	TEL(06)793-0331
広島営業所	733 広島市西区観音本町2丁目10-25	TEL(082)295-0331
四国営業所	760 高松市塩上町2丁目1-5	TEL(0878) 35-3723
九州営業所	815 福岡市南区塩原4丁目5-48	TEL(092)541-0211

●サービスについてのお問い合わせは各営業所サービス係宛にお願いします。